

Well beingな社会の実現に向けた、Z世代にフォーカスしたメンタル不調自動検知アプリの提案

伊藤忠テクノソリューションズ(CTC)

三笥 悠成

開発における問題点

- ・年々メンタル不調を訴える社会人が増えており、テレワーク促進によるコミュニケーションロスから、メンタル不調に気づけない
- ・メンタル不調時は正常な判断が出来ず、自身ではメンタル不調に気づけない
- ・メンタル不調を自動で検知する技術が確立されていない

手法・ツールの適用による解決

- ・アプリがメンタル不調を自動で検知しチャット・メールによる声掛けを行う
- ・生体情報(声)の変化からメンタル不調を自動で検知する(深層学習モデル)

具体的なアプローチ方法

アプローチ1: 初期のシステムアイデアを基にビジネスモデルキャンバスを作成

→利益面の改善・検討個所は明らかになったが、他項目は不十分と考え様々な分析を行った

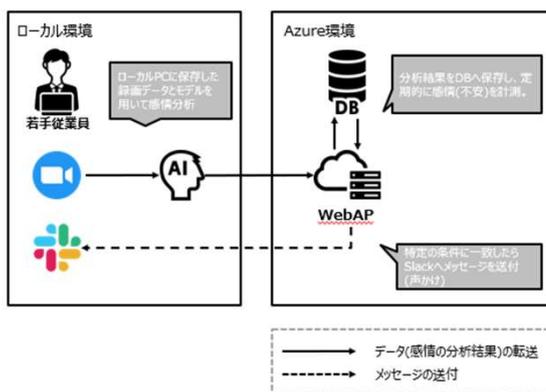
アプローチ2: 学んだモデリング手法を試して改善し、初期アイデアと比較し妥当性・有効性を検討

→分析(利用ユーザ(Z世代)の調査)、IT外サービスとの比較、ITサービスとの比較、トリガーの分析

アプローチ3: 分析結果に基づいてソリューションの提案

アプローチ後のソリューション提案

システム概要図



システム導入イメージ(ストーリーボード)



評価

社内外の聞き取り調査を元に、目的を達成出来るようか評価した。結果、「メンタル不調に気づききっかけとしては最適」等の意見は多数あったが、Well beingな組織の実現には至らない。

今後の展望

下記の通り機能改善、継続的な研究を行う

- ・深層学習モデルの精度向上
- ・声と他生体情報を組み合わせたモデルの検討
- ・メンタル不調に気づかせた後の次のアクションを検討